

高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティ
づくり推進会議（「孤立死」ゼロを目指して）
一 報 告 書 一

平成20年3月

高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティ
づくり推進会議（「孤立死」ゼロを目指して）

「孤立」した生活が一般的となっていく中で、
悲惨な「孤立死」を防止するためには、
人と人とのつながりをもった温かいコミュニティを目指し、
高齢者を含めて地域を構成するすべての人が、
様々なネットワークを通じて
コミュニティを活性化していくことが必要になります。

今後、単身高齢者や高齢者夫婦のみの世帯の増加
(2015年には世帯主65歳以上世帯の64%超)が予測され、
「孤立死」は誰にでも起こる可能性がある事柄になる
と思われまます。

この報告書が、単身の高齢者の方も含め、
地域の皆さんや自治体の方々などに
「孤立死」を考えていただく契機となれば幸いです。

高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティ づくり推進会議（「孤立死」ゼロを目指して）

— 報 告 書 —

〈目 次〉

1	深刻化し、増え続ける「孤立死」	1
(1)	「孤立死」の最近の事例について	1
ア	団地での事例 — 3年発見されなかった	1
イ	地域が気がつかない	1
(ア)	マンションでの「孤立死」 — つながりが欠如し、支 援を拒否する「孤立」者	1
(イ)	ある大都市での事例	2
(2)	なぜ「孤立死」が発生し、社会問題として認識されるよう になったか	3
ア	「孤立」の背景	3
(ア)	家族構成・人口構造の変化	3
(イ)	居住形態の変化	3
(ウ)	経済状況・家族観の変化	3
イ	社会問題としての「孤立死」	4
(ア)	支援を望まない単身者の増加	4
(イ)	「孤立死」が発生すると行政の責任が問われる — し かし行政では限界がある	5
(ウ)	無視できない「孤立死」の社会的コストの増大	5
a	後始末	5
b	地域に波風が立つ	6
c	マンションなどの資産価値に影響	7
2	「孤立」問題とは何か	7
(1)	「孤立」・「孤独」・「寂しさ」	7
ア	「孤立」 — 「孤立」を進行させる生活形態	7
イ	「孤独」 — 社会関係・人間関係の希薄化	7
(ア)	支援拒否の要因	8
a	プライバシー意識	8
b	他人や公のお世話になりたくない	8
c	支援を受けることの重荷感	8
(イ)	元気な間は「孤立」していても生活ができてしまう時代	8
ウ	「寂しさ」 — 心理的な寂寥感	9

(ア) うつの要因に	9
(イ) 脳卒中による死亡の要因でもあることが判り始める	9
(2) 「孤立」した生活が一般化	9
ア 単身高齢者や高齢者夫婦世帯の急増	9
イ 都市部における高齢化の急速な進行	10
ウ 「孤立」した生活が標準モデルへ — 「孤立」した生活 が特別の事柄ではなくなる	10
エ 長期化する一人暮らし — 「孤独」な一人暮らし	10
オ 都市型と町村型	10
3 「孤立死」予防型コミュニティづくりへの提案	11
(1) コミュニティづくりの戦略	12
ア 地域を耕す — 「孤独」の解消	12
(ア) 人とのかかわりが気楽にできる関係づくり	12
(イ) あいさつができる地域づくり	12
(ウ) 人があつまれる拠点の重要性	12
(エ) 適度な世話焼き・(おせっかい) が可能な人間関係	12
(オ) コミュニティの共通課題としての認識の共有化	13
イ 予防的視点の重要性 — 高感度のコミュニティ・機動的 なネットワーク	13
(ア) 起こってからでは遅い、起こる前に発見するコミュニ ティづくり	13
(イ) 起こっても適切に対応できるネットワーク	14
(2) 「孤立死」ゼロ作戦と高齢者虐待と認知症対策さらに災害 予防対策を一体的に考えること	14
ア 社会的サポートを利用しながら地域で生きることの認識 を広める	14
イ それぞれが共通の根からでた問題であるという認識の共有化 ..	14
(3) 「孤立死」防止ネットワークのさまざまなツールや見守り システムの開発と継続的な運用	15
ア 情報通信技術の活用 — 緊急通報・ライフライン検知システム ..	15
(ア) ICTの活用による双方向通信システム	15
(イ) ライフライン等の活用による安否確認システム	15
イ 声かけネットワーク	16
(ア) 近隣の互助機能の組織化	16
a 近隣の見守り・助け合いの機能の再構築としての 「住民相互ネットワーク」	16
b 福祉の専門職等のネットワークとの連携	16
c 福祉以外の見守り・支援機能との連携	17
(イ) チラシ、通信	17

ウ	情報共有ネットワーク－協議会の組織化と運用	17
エ	地域住民・行政・諸機関の協働づくり－地域包括支援センターの活用	18
オ	自治体における住宅部局と福祉部局の連携	19
4	モデル事業等の取組み事例の紹介	19
(1)	行政における取組み事例	19
ア	新宿区	19
(ア)	区の概要（平成20年1月1日現在）	20
(イ)	孤独死防止への取組み	20
a	シンポジウムの開催	20
b	単身高齢者への情報紙の訪問配布事業	20
イ	千葉県	22
(ア)	取組みの経緯	22
a	松戸市常盤平団地自治会の取組み	22
b	団地自治会と県との協働	22
(イ)	千葉県の取組み	23
a	「孤独死対策モデル事業」の実施	23
b	「孤独死対策シンポジウム」の実施	23
c	今後の取組み	24
(2)	民間団体、企業等における取組み事例	24
ア	社会福祉協議会	24
イ	老人クラブ	26
ウ	高層住宅管理業協会	28
(3)	その他関連する取組み事例	30
ア	旭川市消防における取組み事例	30
イ	警察における取組み事例	31
(ア)	京都府警察	31
(イ)	富山県警察	32
(4)	孤立死ゼロ・モデル事業の実施状況	32
[資料編]		38